

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定等に係る事業)

令和7年1月31日

協議会名: 水戸市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 利便増進計画策定事業

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③計画等の策定等に向けた方針
<p>地域に根差した研究機関である茨城大学に委託し、市内バス路線再編に係る手法検討及び効果の予測を行った。 なお、成果品の完成は令和7年3月の予定である。</p> <p>①地域公共交通の利用実態の把握 内容: 双葉台地区を通過又は終点とするバス路線に係るODデータ等の分析 結果: 路線バス事業者よりODデータを取得し、地区住民の利用状況を把握した。また、効率性や利便性向上等の視点から、複数の再編モデルを検討した。</p> <p>②地域住民の意見調査 内容: 双葉台地区の住民意見調査 結果: 町内会回覧や地域の商業施設でアンケート実施について周知するとともに、住民が開催する地区のお祭りにブース出展しての対面意見交換と市民センターへのアンケート設置により住民の意見を収集した。</p> <p>③バス路線見直しについての考察(現在進行中) 内容: 利用実態や住民意見を踏まえた再編案の作成 結果: 現在作成中である。</p>	<p>予定通り調査及び分析を実施した。 令和7年3月までに結果をとりまとめる予定である。</p> <p style="text-align: center;">A</p>	<p>今回の調査手法を踏まえながら、利便増進事業として位置付ける候補路線を検討していく。あわせて路線バス事業者と協議しながら、計画策定の検討を進めていく。</p>

<p>地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)</p>	<p>様々な機会での住民意向調査やデータに基づいた効率的な再編案の検討等、事業が計画通り適切に実施されていることを評価する。</p> <p>第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の計画実施段階の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート等を実施される際は、公共交通の関係者のみならず、スクールバス等、様々な交通モードの関係者にも実施することを検討していただきたい。 ・部局や分野を越えた輸送資源の活用に取り組む場合は、本来の活用方法に影響のないようにしていただきながらも、スケジュールを密に共有するなど連携して取り組んでいただきたい。
--	---

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定等に係る事業)

令和7年1月22日

協議会名: 中野区交通政策推進協議会

評価対象事業名: 利便増進計画策定事業

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③計画等の策定等に向けた方針
<p>(1) モビリティ・マネジメントに関する検討 区民の公共交通を支える意識を醸成し、かしこい利用を促すため、モビリティ・マネジメント(MM)による発信方法や効果等について、調査・検討した。また、(仮称)バス部会の設置に向け、区内バス事業者5者と個別・合同ヒアリングを実施した。</p> <p>(2) 公共交通環境の可視化に向けたデータ整備・運行最適化 GIS等を活用し、区内の公共交通の利用・運行状況・充実度の可視化を行い、運行最適化に向けた検討をした。</p> <p>(3) 新技術の活用に向けた検討 モビリティ・マネジメントによる意識啓発を行動に結びつけ、公共交通利用を促進するため、事業者が提供するMaaSの活用や路線バスの乗継割引等の実現に向けたMaaSの検討を行った。</p> <p>(4) 公共交通サービスレベルが低い地域における実証運行の効果検証 区内の公共交通サービスレベルの低い若宮・大和町(モデル地域)で実施しているワゴン車両の実証運行に関し、地域住民へのアンケート調査やOD調査を行い、導入効果の検証をした。また、区による支援等の関わり方をまとめた方針を検討した。</p>	<p>計画に位置付けたとおり、事業が実施された。</p> <p>MM・MaaSに係る取組方針を「中野区地域公共交通マネジメント戦略」として取りまとめ、公共交通サービスレベルが低い地域における支援方針(案)を作成した。</p> <p style="text-align: center;">A</p>	<p>区の人口は、平成20～30年にかけて増加しているのに対し、総トリップ数は減少している。また、公共交通の利用者数は、COVID-19感染拡大前に戻らないと推測され、現在の公共交通サービスの質を維持していくには、公共交通の利用促進と運行最適化等が求められている。</p> <p>今年度から当事業を活用し、中野区地域公共交通計画(令和6年3月策定)を推進するため、「中野区地域公共交通利便増進実施計画」の策定を令和9年度に目指す。</p>

<p>地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)</p>	<p>公共交通環境の可視化に向けたデータ整備の検討をおこなう等、事業が計画通り適切に実施される見込みであることを評価する。</p> <p>第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の(計画策定に向けた検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画の策定に当たっては、関係者と調整し、調査やアンケートの結果を分析していただきたい。 ・ヒアリング等を実施される際は、公共交通の関係者のみならず、スクールバス等、様々な交通モードの関係者にも実施することを検討していただきたい。 ・部局や分野を越えた輸送資源の活用に取り組む場合は、本来の活用方法に影響のないようにしていただきながらも、スケジュールを密に共有するなど連携して取り組んでいただきたい
--	--

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進等に係る事業)

令和7年1月23日

協議会名: 常陸太田市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 利便増進計画推進事業

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
<p>「常陸太田市地域公共交通利便増進実施計画」に基づき、施策の実施及び施策を推進するための効果検証を行っている。</p> <p>【施策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共交通利活用に係る効果検証(各交通事業者からデータを収集・分析中) 乗り方教室の開催(令和7年2月4日、3月日実施予定) 路線バスを利用したバスツアーの開催(令和6年11月4日、8日実施) チラシの作成・配布(バスツアー開催チラシ、中学生への路線バス啓発チラシを作成・配布) バスマップ及び時刻表の更新・配布(最新バスマップをHPに掲載) バスロケーションシステムの運用・周知(チラシの配布、HPへの掲載) 	<p>計画に位置付けられたとおり、事業が適切に実施される見込みである。</p> <p style="text-align: center;">A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 路線バスの運行について効率的かつ効果的で、利便性の高い路線バスの運行となるよう、利用実態を踏まえながら、必要な運行内容の見直しを図る必要がある。 路線バスの運行を維持するため、運転士確保に向けた施策に努める必要がある。 市民アンケート等の結果によると、路線バスに乗ったことがない、乗り方が分からないといった市民が多いことから、乗り方教室の開催や啓発チラシの配布、SNS等を積極的に実施し、路線バスの魅力を発信し、若年層の利用促進に努める必要がある。 ドアツードアサービスの利用を望む高齢者等が多いことから利用実態を踏まえながら乗合タクシーの充実を図る必要がある。

<p>地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)</p>	<p>周知活動に加え、デジタル技術や交通データの効果的な活用等、事業が計画通り適切に実施される見込みであることを評価する。</p> <p>第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の計画実施段階の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 部局や分野を越えた輸送資源の活用に取り組む場合は、本来の活用方法に影響のないようにしていただきながらも、スケジュールを密に共有するなど連携して取り組んでいただきたい。 アンケート等を実施される際は、公共交通の関係者のみならず、スクールバス等、様々な交通モードの関係者にも実施することを検討していただきたい。
--	--

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進等に係る事業)

令和7年1月21日

協議会名: 匝瑳市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 利便増進計画推進事業

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
<p>(事業内容) 市内循環バス利用者アンケート調査の実施 再編を行い、令和5年4月1日から運行を開始した市内循環バスの利用者アンケート調査を行うことにより、計画に定められた評価指標である市内循環バス利用者満足度を調査し、事業の効果について把握する。</p> <p>(事業結果) 調査日時: 令和6年9月2日(月)始発から最終まで 調査方法: バスの乗客へ調査票を渡し、乗客自身が調査票の該当箇所を折り込むアンケート方式(ビンゴ形式調査票の活用) 調査項目: 乗車・降車バス停、利用者属性(性別、居住地、年齢)、利用目的、利用頻度、運転免許有無、運転免許の返納意思、往復利用、運行サービスの満足度、満足している項目、改善を希望する項目 回答数: 合計136人※うち拒否22人含む(豊栄・匝瑳循環13人、椿海・豊和循環37人、平和・共興循環22人、野田・栄循環49人、須賀・栄循環15人) 市内循環バス利用者満足度: 72.0%(満足+やや満足)、目標値: 79.3%</p>	<p>A</p> <p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>アンケート結果を受けて、改善を希望する項目の運行本数、運行ルートなど、系統別に市内循環バス見直しの参考とし、乗り方教室の開催やイベントでのバスの展示と利用案内や時刻表の配布を行い、より多くの方にバスの周知を図る。 また、アンケートの実施期間について、より多くの意見を反映できるよう次回(令和9年度)実施時に見直しを検討したい。</p>

<p>地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)</p>	<p>バス利用者への調査を計画に位置づけたとおり適切に実施し、回答結果も記載している点について評価する。 引き続き利用状況を基に検討を行い、更なる運営効率化や利用増加へつながることを期待する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の参考としていただきたい。 ・アンケートの回答等において、公共交通の関係者とそれ以外で違いがあれば、計画策定の際に活かしていただきたい。 ・地域公共交通計画の策定に当たっては、関係者と調整し、調査やアンケートの結果を分析していただきたい。 ・アンケート等を実施される際は、公共交通の関係者のみならず、スクールバス等、様々な交通モードの関係者にも実施することを検討していただきたい。</p>
--	---